



## 論文審査及び最終試験結果の要旨

本論文は、病院や介護施設において食事提供の際のトレイに着目し、食欲促進につながるトレイの色彩を提案することを目的としている。入院患者の多くが、病気の治療等により食欲が低下し、食事摂取量が減少する可能性がある。また、高齢化が進む中、介護施設で生活する高齢者も増加している。高齢者は食欲が低下し低栄養になりがちである。これらの背景より患者や高齢者の食欲を促進する食環境づくりを目指すものである。

まず、pale トーンの 10 色相のトレイに載せた病院食の写真に対し、味覚の印象の有無や食事全体の印象について、男女間にどのような違いがみられるかを明らかにすることを目的に、女子大学生と男子大学生を対象に調査した。女子学生群は男子学生群より Yellow Green に対し、有意に塩味の印象を抱き、Blue に対する印象を低く評価した。Red、Orange、Yellow の 3 色相は、男女ともに推奨できるトレイであることを明らかにした。

次に、同様のサンプルを用い女子学生と健康な高齢女性を対象に調査を行い、年齢の違いによりどのような差異がみられるか分析した。高齢者群は若年者群より、色相 Green、Blue Green、Blue、Violet の色相に対し、酸味の印象を有意に抱き、おいしさ感も高く評価した。Red、Orange、Yellow、Purple、Red Purple の 5 つの色相を活用することで、食欲促進につながる可能性を示した。高齢者に食の援助を行う際には、加齢による水晶体の変化や味覚変化を考慮し、色彩環境を整えることの重要性について言及した。

次に、体調の違いによる差を明らかにすることを目的に、産婦人科入院患者と一般女性を対象に同様の調査を行った。10 色相の印象評価については、色相別に入院患者群と一般女性群を比較すると、pale トーンの Red Purple の印象評価に有意な差異を認めた。Red Purple は、産婦人科の入院患者にとって推奨できるトレイ色であることを明らかにした。

さらに、産婦人科の病院において、実際に異なる色彩のトレイによって配膳された病院食について、入院患者が抱く食事全体の印象やおいしさ感に、どのような違いがみられるか調査した。また、異なるトレイにより残食量の違いがみられるか残食測定を行った。産婦人科の入院患者は、黄赤色トレイで配膳された食事を白色トレイよりも食欲がわき、おいしいと評価し、さらに、体調の悪い患者は、体調の良い患者よりも白色トレイの「味がある」項目を低く評価した。これらのことから、産科の患者以外の病期の重症度が高い患者に対しても、白色のトレイの使用には、慎重な検討が必要であることが示唆された。黄赤色トレイの平均残食量は、白色トレイよりも少なかったことから、トレイの色彩の違いによって食事摂取量が変化する可能性を認めた。また、3 色のトレイの残食量の少ない順位と、産科入院患者群を対象とした画像を用いた調査のおいしさ感の順位は、同じであったことから、画像を用いた調査の有効性を確認した。

本論文は、病院食のトレイ色を変化させた画像に対する印象の違いを体系的に調査するとともに、実際に病院で配膳して検証した応用的価値の高い研究である。病院や介護施設の食事において、食べ物だけではなく、食環境の重要性を示唆したことは、極めて意義深い。以上により、本論文は博士（人間環境科学）の学位授与に十分に値すると考える。